寺報
得源寺

第４号
発行 ＝ 真宗大谷派得源寺
住職大橋友啓
☎0767-68-2096

お節介と言わずに避難を

住職　大橋友啓

昨年は、色々な災害が次から次と発生しました。一一月末の夕刊に、こうした頻発する災害にあってもなぜ人は避難しないのだろうか。避難していれば助かった命があったのに、災害現場で聞き取り調査、アンケートやヒヤリングをしても謎だ。と防災計画が専門の研究者のコラムが載っていました。

さらに、特売や安売りのチラシにはすぐに行動するが避難勧告などの告知に対する反応が鈍いと嘆いていました。

このような物欲の強い人の性格を利用して、絶体絶命の人を救うと言う仏の教えがたくさんあります。「救う」とか「助ける」という言葉が飛び交っているためか、仏教や宗教は生身の命を救ってくれるものだと思っている人がいるようです。

私たち真宗大谷派のお葬儀で葬場勤行の最後に引く

『本願力にあいぬれば、むなしくすぐるひとぞなき』と、親鸞聖人が八四歳でお書きになった高僧和讃があります。

つまり弥陀の本願を信ずる心が生ずる人は、むだな日々を過ごすことはなくすべてのことに意義を感じ取れる身となるということです。だから仏教は、生身の命を危機から回避してくれるものではないのです。

災害からあなたの命を救ってくれるのは仏教でなく避難勧告だということだと思います。

こんなことをいうと、やっぱり仏教では命は助からんのやから、寺なんて必要ない。とか、仏教なんていらん。といい出す人があらわれますが、このような持論で固まって次から次と飽くことのない難題を生み出す人のことを仏教では「凡夫」といいます。

この「凡夫」たらしめているものの根本に迫って、それを引き抜くことですべての人々を救おうと立ち上がった法蔵という元国王の物語があります。

法蔵は、極楽という日本一有名な浄土を築き、すべての人々を極楽浄土に送りこむことができなければ、阿弥陀如来にならないという誓いをお立てになりました。

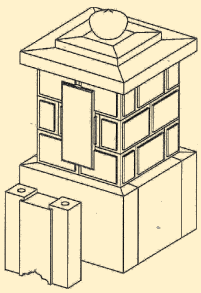
こうした物語を通して私たちは大乗仏教の一切衆生を救うという考え方を知るのです。

先の研究者は、思い通りになってくれない人々の大切な命を守ろうと研究を重ねているのですから頭が下がります。

ただ、研究者も仏教に携わらせていただいている私のような住職も、本当に危険が迫っているにもかかわらず「たすけてくれ」と、いっていない人をたすけようというのだからお節介といわれる可能性が高いという点では共通しているようです。

避難勧告が出たらみなさん素直に従いましょう。

納骨堂意外に人気



完成予想図

境内に共同の納骨施設を建てるという告知を前号で掲載したところ、意外にもご門徒のみなさんの反響が多かったことに驚いています。

進捗状況は、私の書いたラフスケッチを元に早くも図面が引かれ CG による完成図も出来上がっています。

基本的には、拙寺のご門徒さんが使うものですから、そんなに大きなものではありません。

今後は、管理運用に関する規則などを三月二〇日に開催予定の総代会にはかって、ゴールデンウイークあたりに建碑法要ができないかと思っています。

お知らせ!!

（二〇二〇年二月～五月

✿春の祠堂経会（しどうきょうえ）

永代祠堂料というのは、自宅のお葬儀や年忌法要をご縁に手継ぎ寺の維持管理費としてお納め戴く懇志金のことです。

お納めいただくとそのお宅の祠堂日を定めて決められた日時に末代にわたって読経を勤めます。拙寺では、春夏秋毎に五日間にわたって祠堂経会を開催しています。

開催日は、午後二時から読経が勤まりその後ご法話一席。正信偈で参詣者全員がお逮夜を勤めて二席目のご法話を聴聞していただきます。

これは、日頃疎遠にしている手継ぎ寺に足を運び、ご自宅の先祖供養をご縁として仏法を聴聞する場に就かせていただくという真宗門徒が大切にしてきた仏事です。

近年、能登の寺院でも年間三日にした。とか、一日にしたという声を聞きます。

本来、命終した方の命日を縁として勤まる法要だから年間三〇日勤めていたのですが参詣者の減少が開催日を減らしてしまった主な理由のようです。

確かに布教師さんの謝金をお支払いするだけでも参詣が少なくなると大変です。

そんなことより、ご自宅の祠堂日だけでも寺に足を運んでみてはいかがでしょう。ご先祖様が、あなたに残してくれた少ない仏縁の場ですから。

と　き　三月一六日(月)から
　　二〇日・春分の日
　　午後二時　お始まり
講　師　西岸正映氏
　　（田岸常光寺住職）

✿帰敬式（ききょうしき）講座

詳細は、次号でお知らせする予定ですが、六月中に帰敬式（おかみそり）についての「いまさら講座Ⅱ」を開催します。

今号の脳トレ

今回からは、十字クロスに挑戦してみてください。

真ん中の□に文字を入れてください。

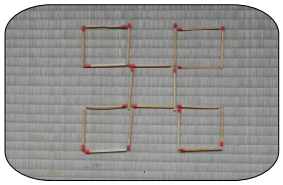
※ ヒントは住職に聞いてください。

種明かしは次号です。

倒

土 □ 刀

工



前号の答えで～す。

おかげ様のいのち

お家にいる子どもの歳とお父さんとお母さんの歳は同じだよ!!。

こんなことを書くと、いよいよ住職にも焼きが回ってきたかと思われる方がいることでしょうが、お爺ちゃんもお婆ちゃんも子どもと同じ歳です。昨今では、パパとママも子どもと同じ歳です。

なぜなら、みんな父ちゃんとか母ちゃんと呼ばれるようになったのは、子どもが生まれた瞬間からです。爺も婆もパパもママも、新しい「いのち」が誕生してからそう呼ばれるようになったのです。

子どもが誕生してくれたおかげでそれぞれが「名告り」をあげることができたのです。そこには「おかげ様」という生まれてくれた「いのち」への感謝しかありません。

生まれてきてくれてありがとうです。

（釋友啓）